**説明文書**

**局所（浸潤）麻酔とは**

この文書は，患者：@PATIENTNAME　様への局所（浸潤）麻酔について，その目的，内容，危険性などを説明するものです。説明を受けられた後，不明な点がありましたら何でもおたずねください。

1. 説 明 日：　　　　年　　月　　日

2．説明医師：（自筆署名，もしくは記名押印）＊

＊自筆する。ゴム印等を用いて記名する場合は印を加える。

3．説明を受けた方：

（1）患者様本人に判断能力がある場合

患者様本人：（自筆署名，もしくは記名押印）＊

同　席　者＊2：（自筆署名，もしくは記名押印）＊　 （患者様との関係：　　　　　）

＊2患者様本人以外に同席者がいる場合。

（2）患者様本人に判断能力がない場合

代　諾　者：（自筆署名，もしくは記名押印）＊　　 （患者様との関係：　　　　　）

同　席　者＊3：（自筆署名，もしくは記名押印）＊　 （患者様との関係：　　　　　）

＊3代諾者以外に同席者がいる場合。

１　局所（浸潤）麻酔とは

局所（浸潤）麻酔は、手術中の痛みを取り、また術後の痛みをやわらげるために行い

ます。局所麻酔薬（神経を一時的に麻痺させる薬）を、手術をする部位に直接注射して

痛みをなくします。局所麻酔薬の効きめがなくなれば、感覚は元に戻ります。体への負

担が軽い麻酔法ですが、大きな手術では痛みをとりきれないことがあります。また、薬

の量が多くなると、局所麻酔薬による中毒を起こす危険があります。

今回あなたが受けられる手術は，通常，局所（浸潤）麻酔で行っています。また，あ

なたにとって局所（浸潤）麻酔は医学的に禁忌ではありませんので，今回これを行う予

定です。

２　局所（浸潤）麻酔の内容

この麻酔は，次のような手順で行われます。

１）点滴，測定機器の取り付け

手術室に入ると，点滴をとります（病棟にて点滴をとっている場合にはそれを使用します）。また，手術中の心拍数，血圧，心電図や体内酸素濃度を測定するために測定機器を取り付けます（図１）。

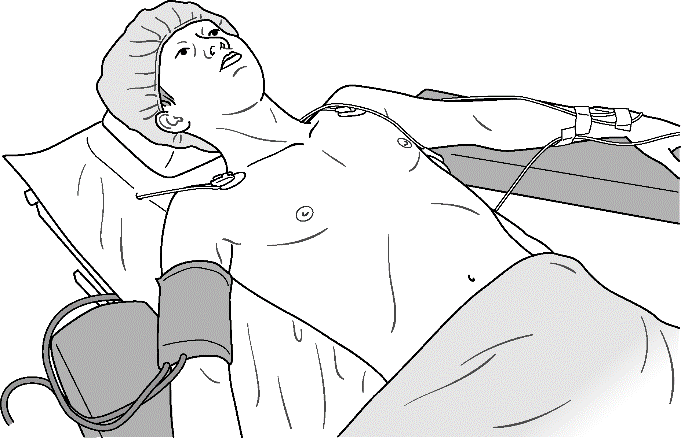


図１　手術室入室・モニター機器装着

２）局所（浸潤）麻酔を行う時期

手術を開始する前に行います。

３）局所（浸潤）麻酔の方法

細い針で局所麻酔薬を手術する部位に直接注射して痛みをなくします。これはそれ

ほど痛い注射ではありませんが、痛い場合はなるべく体を動かさずに，「痛い」といっ

てください。動くともういちど注射しなければならず、場合によっては他の組織を傷

つける可能性があります。痛みが強すぎてどうしても耐えられずに、局所（浸潤）麻

酔が困難と判断される場合には，その時点で中止し，後日，別の麻酔方法で行います。また，注射した部位近くから電気が走ったように響くことがあれば，直ちに，医師にお知らせください。神経に針が触ったり、薬が神経に沿って広がっている可能性があるので、しびれなどを確認して対処します。

４）手術開始

麻酔が効いている範囲を調べるために，軽くつまむなどをして痛みの感じ方を確か

めるのでご協力ください。麻酔の効いている範囲が十分であることが確認できたら，手

術を始めます。麻酔が効いていても，触った感じやしびれた感じは残ることがあります。

麻酔の効いている範囲が不十分な場合や，手術が始まり麻酔の効果が不十分とわかった

場合には，ご説明し，局所麻酔薬を追加したりします。

５）手術終了

手術が終了すれば，手術室から病室へと帰室します。しばらくは注射した部位のま

わりがしびれたり、手術した部位の感覚が鈍くなる可能性があります。

３　局所（浸潤）麻酔に伴う合併症

合併症としては，穿刺部痛、出血、血腫、感染症、神経障害などです。また、麻酔薬による中毒症状、アレルギー反応もあります。

１）穿刺部痛、出血

麻酔の針を刺した部位の痛みや出血があります。通常は数日で軽快します．また針を刺した部位に血液が溜まった状態（血腫）や膿が溜まった状態（膿瘍）が起こることがあります。軽症の場合は自然に吸収されるのを待つか，抗菌剤を投与して経過を観察します。大きい血腫や膿瘍が神経を圧迫することで，より広い範囲の麻痺となり，時に手術による除去が必要となります。このようなことはまれですが，血液が固まりにくくなる薬を飲んでいる場合には，危険性が増しますので，予めお知らせください。

２）局所麻酔薬中毒の症状

局所麻酔薬の血液中の濃度が上昇して起こる全身的合併症です。局所麻酔薬をたく

さん使う場合に起こる可能性があります。また，少ない量でも血管内に局所麻酔薬が

直接注入されることでも起こります。初期の症状としては、舌のしびれ、興奮、血圧

上昇、過呼吸、ぴくつきがあります。この血液中の濃度がさらに上昇すると、全身の

けいれんが起こり、意識がなくなり、呼吸停止、血圧低下や徐脈、心停止が起こりま

す。その場合は、直ちに心肺状態の改善に対応します。

３）神経障害など

注射針が神経を傷つけることによって、神経の分布に沿った痛み、感覚の麻痺などが残ったりすることがありますが、まれです。

４）その他

まれに局所麻酔薬によるアレルギー反応などがあります。

４　代替可能な処置

局所（浸潤）麻酔は、体への負担が軽い麻酔法ですが、手術侵襲が大きくなってしま

った場合には痛みをとりきれないことがあります。その場合には全身麻酔や神経ブロックといった麻酔方法を選択することができる場合もあります。

５　患者様の具体的な希望

６　検査中の針刺し事故等発生時の感染症検査

　　万が一麻酔中に職員に針刺し事故等が発生した場合には、職員のその後の健康管理の

ための患者さんの感染症検査が必要となります。この検査結果は、目的以外に使用する

ことはありませんし。また、検査費用も一切かかりません。

もし針刺し事故等が発生した際には、あなたの静脈血を6cc採血させていただき、B型

肝炎（HBV抗原）、C型肝炎（HCV抗体）、後天性免疫不全症候群（HIV抗体）の3項目を

検査いたしますので予め御了承願います。

７　局所（浸潤）麻酔の同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても，局所（浸潤）麻酔が開始されるまでは，この処置を受けることをやめることができます。やめる場合にはその旨を下記まで連絡してください。

８　連絡先

局所（浸潤）麻酔について質問がある場合や，処置を受けた後に緊急の事態が発生した場合には，下記まで連絡してください。

|  |
| --- |
| 【連絡先】  住所：福島市光が丘１  病院：福島県立医科大学附属病院　　　　　　　科  電話：０２４－５４７－１１１１ |

**局　所　麻　酔　承　諾　書**

福島県立医科大学附属病院 病院長 殿

私は、　　　　　　　　　　　　　　　　を受けるにあたり、下記の医師から、局所麻酔に関する十分な説明を受けました。そして、以下のチェック項目の内容を十分に理解しましたので、局所麻酔を受けることを承諾します。

なお，この局所麻酔に関する説明文書とこの承諾書を受け取りました。

□　局所麻酔方法の概略

□　局所麻酔による合併症

□　合併症発生時の対応

□　代替可能な処置

□　患者さんの具体的希望

□　局所麻酔の承諾を撤回する時の連絡先

□　手術中の針刺し等発生時の感染症検査

　（確認後に□項目にチェックしてください）

（説明）

説明年月日：　　　　年　　月　　日

説明医：　　　　　　　　　　　科

氏名

立会者（所属）　　　　　　　　科

氏名

（承諾）

承諾年月日：　　　　年　　月　　日

承諾者（本人）：氏名

代諾者（未成年、患者さんに判断能力がない場合のみ、代諾者が患者氏名及び代諾者氏

名を自筆署名してください）

患者氏名

代諾者氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　（患者さんとの関係：　　　　　　）

　　住所